

共通.....	1
修正済みの問題.....	1
既知の問題.....	2
一括取り込みアプリケーション.....	3
修正済みの問題.....	3
既知の問題.....	3
一括取り込みデータベース.....	3
修正済みの問題.....	3
既知の問題.....	9
一括取り込みファイル.....	11
修正された問題.....	11
Informatica グローバルカスタマサポート.....	11

一括取り込みリリースノートには、一括取り込みアプリケーション、Informatica Intelligent Cloud Services、一括取り込み、一括取り込みデータベースを含む、一括取り込みファイルSM一括取り込みストリーミングサービスの 2024 年 4 月リリースで修正された問題と既知の問題が記載されています。

新機能と改善点については、「一括取り込み新機能」を参照してください。

共通

修正済みの問題

次の表に、2 つ以上の取り込みタイプに適用される修正済みの問題を示します。すべての月次リリースに、修正済みの問題が含まれているわけではありません。

2024 年 4 月リリースで修正された問題

問題	説明
DBMI-15990	LOB カラムがあるがプライマリキーのない SQL Server ソーステーブルを持つ、アプリケーション取り込みとデータベース取り込みの増分ロードジョブと、初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブで、対応するターゲットテーブルに重複レコードが適用される場合がある。
DBMI-15836	Databricks Delta ターゲットを持ち、Microsoft Azure Data Lake Storage (ADLS) Gen2 を使用してデータをステージングするアプリケーション取り込みとデータベース取り込みの増分ロードジョブと組み合わせロードジョブで、すべての CDC サイクルが終了し、すべてのサイクル固有のサブディレクトリが削除された後に、親ステージングディレクトリが削除されない。親ディレクトリも削除する必要があります。

2023 年 11 月リリースで修正された問題

問題	説明
DBMI-14798	アプリケーション取り込みジョブまたはデータベース取り込みジョブは、以前に適用され、リーダーの永続性に保存されたスキーマの変更を処理する場合がある。
DBMI-14780	アプリケーション取り込みジョブとデータベース取り込みジョブで、次の誤ったエラーメッセージがログに記録される場合がある。 Internal logic error - expected the stats definitions and stats values to have the same label.
DBMI-14709	Amazon S3 ターゲットを持つアプリケーション取り込みタスクまたはデータベース取り込みタスクを実行する場合、Amazon S3 バケットに対してジョブを実行するために十分なアクセス許可がないと、タスクが失敗する。

既知の問題

次の表に、2 つ以上の取り込みタイプに適用される既知の問題を示します。各問題の説明にある（年月）の値は、問題が発見されたリリースを表します。

問題	説明
DBMI-12846、 DBMI-12847	NTLM プロキシ認証用に設定された Windows で Secure Agent を使用している場合、Amazon RDS for Oracle または Amazon Redshift ターゲットを持つアプリケーション取り込みタスクあるいはデータベース取り込みタスクを作成しようとすると、タスクウィザードでターゲットスキーマのリストを取得できない。その結果として、タスク定義を完了できません。この問題は、オンプレミスの Oracle ターゲットでは発生しません。 回避策: なし。(2023 年 4 月リリース)

一括取り込みアプリケーション

修正済みの問題

次の表に、最近一括取り込みアプリケーションで修正された問題を示します。すべての月次リリースに、修正済みの問題が含まれているわけではありません。

2024 年 4 月リリースで修正された問題

問題	説明
AIN-2981	Snowflake ターゲットを持ち、 【ソフト削除】 の 【適用モード】 設定を使用するアプリケーション取り込みの増分ロードジョブまたは初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブにより、削除レコードと挿入レコードのペアとしてソースで更新操作がレプリケートされ、その結果、更新レコードが予期されるにもかかわらず、ターゲットに削除レコードが表示される。

2024 年 2 月リリースで修正された問題

問題	説明
AIN-4755	ServiceNow ソースを使用したアプリケーション取り込み増分ロードタスクまたは組み合わせロードタスクで子テーブルからデータを削除すると、そのデータが親テーブルからも削除される。これは、Secure Agent のプロパティ <code>metadata_manager.jvm.ai.servicenow.enable.cdc.using.inherited.columns</code> および <code>task_container.jvm.ai.servicenow.enable.cdc.using.inherited.columnsare</code> が <code>true</code> に設定されている場合にのみ該当します。

既知の問題

次の表に、一括取り込みアプリケーションの既知の問題を示します。各問題の説明にある（年月）の値は、問題が発見されたリリースを表します。

問題	説明
DBMI-11800	Adobe Analytics または Google Analytics ソースから Oracle ターゲットにデータを取り込むように設定されたアプリケーション取り込みジョブが、次のシナリオで失敗することがある。 <ul style="list-style-type: none">- ソースオブジェクトに文字型が含まれていても、プライマリキー制約が含まれていない場合。- ソース文字型がプライマリキー制約の一部である場合。 回避策: なし。(2022 年 11 月リリース)

一括取り込みデータベース

修正済みの問題

次の表に、最近一括取り込みデータベースで修正された問題を示します。すべての月次リリースに、修正済みの問題が含まれているわけではありません。

2024 年 4 月リリースで修正された問題

問題	説明
DBMI-16940	<p>Db2 for z/OS ソースと Snowflake ターゲットを持つデータベース取り込み増分ロードジョブが、次のエラーで繰り返し失敗する場合がある。</p> <p>CDCPUB_10066] TRACE: [PwxCDCReaderRunHandler encountered error :Previous sequence <previous_sequence_number> is not less than current sequence <current_sequence_number>. Caused by: Previous sequence <sequence_number> is not less than current sequence.</p>
DBMI-16392	<p>Databricks Delta ターゲットを持つデータベース取り込みジョブが、ソーステーブルの Timestamp カラムに NULL 値が含まれている場合に失敗することがある。この問題は、Databricks Delta ANSI_MODE 設定パラメータが TRUE に設定され、ジョブが Databricks Delta MERGE 文と COALESCE 関数を使用してカラムの NULL 値を処理しようとした場合に発生します。</p>
DBMI-16382	<p>DML アクティビティがない間に、DB2 for i ソースを持つデータベース取り込みの初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブが、初期ロードフェーズ中にサブタスクがキューに追加済みの状態になってハングすることがある。ジョブのログには次のタイプのメッセージが含まれます。</p> <p>[CDC_COMBINED Transition Scheduler Helper(264)] INFO com.informatica.msglogger - [DBMIP_23019] The process [CDC_COMBINED] with the thread ID [264] is waiting for in-flight data from a previous run to complete. Minutes waited [17]. [CDC_COMBINED Transition Scheduler Helper(264)] INFO com.informatica.msglogger - [DBMIP_23020] Thread [264] [PUBLISHED] transition event [SCHEDULER_REQUEST_INFLIGHT_DATA_MARKER]. Details: [, time=1708074372616].</p>
DBMI-16290	<p>Oracle ソースと Snowflake ターゲットを持ち、スキーマドリフトが有効になっているデータベース取り込みの初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブは、VARCHAR(16)から VARCHAR(20)などのようにカラムの精度を上げると失敗することがある。この問題は、タスクデプロイメント時にコードページ CP1252 を使用したものの、この文字セットが実行時に使用できない場合に発生します。実行時に、ジョブは UTF-8 コードページを使用するため、精度が低下し、次の例外が発生します。</p> <p>[Thread-156177] LEVEL_1 trace - Exception handled: 'SQL compilation error: cannot change column <column_name> from type VARCHAR(20) to VARCHAR(16) because reducing the byte-length of a varchar is not supported. With error code 40050</p>
DBMI-16277	<p>コード化文字セット ID (CCSID) エンコードで使用するコードページをオーバーライドする手段が使用不可である。この修正によって、<code>pwx.cdcreader.iseries.option.CCSID2CodePageOverrides(ccsid,code_page)</code> カスタムプロパティを使用して、Db2 for i テーブルレベルで指定された CCSID のオーバーライドコードページを指定できるようになりました。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。</p>

問題	説明
DBMI-16257	<p>DB2 for i ソースを持つデータベース取り込みジョブは、次のような特定の SQL エラーコードについて、Db2 からジャーナルレシーバリストを取得するためのクエリを再試行できない。</p> <p>[CDCPUB_10066] TRACE: [IBMiClient setErrorCondition() called. Error<IBMiMetadataManager getSchemas(), Exception JDBCapi ExecuteSQL(), -443 58004 [informatica][DB2 JDBC Driver][DB2]An error occurred executing function or procedure QSYS.QDBSSUDF2 with the following parameters: (SYSTEM ERROR CONDITION 2). Refer to the joblog for more information regarding the detected error.SQL Command: ...</p> <p>この修正によって、pwx.cdcreader.iseries.option.useNewLogCollector=true および pwx.cdcreader.iseries.option.useJournalReceiverQueries= true カスタムプロパティを pwx.cdcreader.iseries.option.ConnectionRetryCodes、pwx.cdcreader.iseries.option.journalReceiverRetries、および pwx.cdcreader.iseries.option.journalReceiverInterval カスタムプロパティとともに使用して、ジャーナルレシーバクエリ中に SQL エラーが発生した場合に再試行を有効にすることができるようになりました。詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。</p>
DBMI-16199	pwx.cdcreader.ZOS.ConnectionRetryCodes カスタムプロパティは、-443 などの負のエラーコードを受け入れる。
DBMI-16188	<p>LOB カラムと NOT NULL DEFAULT 制約で定義された非 LOB カラムを持つ Oracle 19c ソースからデータをレプリケートするデータベース取り込み増分ロードジョブは、一部の挿入操作を処理するときに次のメッセージで失敗することがある。</p> <p>PWX-36200 ORAD: Column conversion error: [36202] NULL value found for column that is not nullable for Table name=<table_name>, column[<number>] segment[<number>] ADULT_INDICATOR. Detail Type = VARCHAR, Oracle Type = CHAR.</p>
DBMI-16186	データベース取り込みジョブが DB2 for i ソースジャーナルレシーバに対してクエリを実行する場合、SQL クエリが無効なシーケンス番号で作成されると、ジョブは SQLCODE -443 で失敗することがある。
DBMI-16185	Db2 for z/OS ソースを持つデータベース取り込みジョブを実行すると、Db2 for z/OS ログパーサーがスキーマドリフト解析の失敗を検出せず、データをキャプチャせずにジョブの実行が継続されることがある。
DBMI-16184	<p>一部の LOB カラムがある Oracle ソースを持つデータベース取り込み増分ロードジョブは、一部の更新操作を処理しようとする、次のメッセージが表示されて失敗することがある。</p> <p>PWX-36045 ORAD WarnOPASM: OP:26.1 unexpected unexpected operation type found at offset <bytes>. pKDLI->GetOp()= 2, length= <bytes> [PwxOrlCmnCV:2643] at redo log position SCN <scn> RBA <rba> (file: <number>).</p> <p>この問題は、Oracle が更新に対して不正な REDO レコードを生成した場合に発生します。</p>
DBMI-16049	ルールに基づいて選択された Oracle または SQL Server ソーステーブル（選択されたカラムのサブセットを含むものもあり）を持つデータベース取り込みタスクを保存した後、一部のテーブルで選択したカラムを追加または削除して [更新] アイコンをクリックすると、ソーステーブルの [テーブルビュー] の数と一部のテーブルのカラム選択が正しくない。
DBMI-16014	オンプレミスの SQL Server ソースと Azure SQL Database ターゲットを持つデータベース取り込み増分ロードジョブでは、同じプライマリーキーを使用する同じカラムのトランザクションで複数の更新が発生すると、更新操作がターゲットに誤ってレプリケートされる。

問題	説明
DBMI-16013	Kafka ターゲットを持つデータベース取り込みジョブでは、パスワードなどの機密情報が接続プロパティの【追加接続プロパティ】フィールドに入力されている場合、ジョブログにクリアテキストで記録される場合がある。
DBMI-15796	FLOAT データ型と精度が 32 を超えるソースカラムを持ち、Parquet 出力形式を使用するデータベース取り込みジョブでは、すべてのロードタイプでソースの FLOAT カラムがターゲットのデータ型に一貫性のある形で変換されません。初期ロードジョブはターゲットの FLOAT カラムを生成しますが、増分ロードジョブと組み合わせロードジョブはターゲットの DOUBLE カラムを生成します。今後は、すべてのロードタイプのジョブがターゲットの DOUBLE カラムを生成します。

2024 年 2 月リリースで修正された問題

問題	説明
DBMI-16104	SQL Server ソースを持ち、クエリベースの CDC メソッドを使用するデータベース取り込みジョブでは、値が NULL の INTEGER データがターゲットに 0 として誤ってレプリケートされ、NULL の値を FALSE とした BIT データがレプリケートされる場合がある。
DBMI-15903	DB2 for i ソースを持つデータベース取り込みジョブは、新規ログ収集モードでジャーナルをリセットした後、変更データをキャプチャしない場合がある。
DBMI-15842	Oracle ソースを持つ新しいデータベースタスクを作成するか、既存のタスクを更新する場合、【 ルールの適用 】をクリックすると、次のエラーが発行されることがある。 Cannot retrieve the list of objects. HTTP response status code is 500, Duplicate key
DBMI-15714	SQL Server ソースを持ち、パーティション化が有効になっているデータベース取り込みジョブは、Windows 認証を使用して SQL Server に接続すると失敗することがある。
DBMI-15552	Oracle または SQL Server ソースを持ち、スキーマドリフトが有効になっているデータベース取り込み増分ロードジョブまたは組み合わせロードジョブは、追加のソースカラムを選択し、ジョブの実行後にジョブを再デプロイすると、スキーマドリフトの警告を発行する代わりに、次のいずれかのエラーで失敗することがある。 A source table schema change should stop the table. Added column found :column_name conflicts with the previously ignored drop of column <same_column_name>. A change to the source definition of table [schema.table] was encountered. The table is configured to fail. The target will no longer receive data or this table. Change description(s): [Added column found :column_name conflicts with previously ignored drop of column <same_column_name>].
DBMI-15527	SAP HANA ソースを持つデータベース取り込み増分ロードジョブは、データがソーステーブルに存在していても、受信した変更データの待機中にハングすることがある。ジョブはエラーを報告せずに実行を続行します。
DBMI-15494	データベース取り込みタスクウィザードの【 ソース 】ページでは、タスクが「デプロイ済み」、「完了」、または「稼動中」状態になった後に【 テーブルビュー 】でそのテーブルをフィルタリングした場合、選択されたすべてのカラムと選択されていないすべてのカラムではなく、テーブルに対して以前に選択したカラムのみが表示される。

問題	説明
DBMI-15373	<p>SQL Server ソースと Snowflake Data Cloud ターゲットを持つデータベース取り込みジョブの【Superpipe】オプションを選択し、ソースカラムに DATETIMEOFFSET データ型が含まれている場合、そのソースカラムのデータをターゲットの TIMESTAMP カラムに書き込もうとすると、ジョブが次のエラーで失敗する:</p> <pre>java.lang.RuntimeException: net.snowflake.ingest.utils.SFException: The given row cannot be converted to the internal format due to invalid value: Value cannot be ingested into Snowflake column "column_name" of type TIMESTAMP, Row Index: 0, reason: Not a valid value,...</pre>
DBMI-15321	SQL Server ソースを持ち、クエリベースの CDC メソッドを使用するデータベース取り込みジョブは、SQL Server 接続プロパティで【認証モード】として【Windows 認証 v2】を選択すると、ソーステーブルのロードに失敗することがある。
DBMI-14797	データベース取り込みタスクは、一括取り込みデータベースが、以前に削除されたカラムに対するカラムの削除要求を検出すると、SQL コンパイルエラーで失敗することがある。
DBMI-13202	<p>VARCHAR2 カラムがある Oracle ソースと Oracle ターゲットを持つデータベース取り込みの初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブが、増分変更データ処理の開始時に失敗する。この失敗は、次の一意制約エラーが原因で発生します。</p> <pre>Exception handled: [informatica][Oracle JDBC Driver][Oracle]ORA-00001: unique constraint <constraint> violated\n'. With error code 1</pre>

2023 年 11 月リリースで修正された問題

問題	説明
DBMI-15309	<p>MySQL ソースを持つデータベース取り込み増分ロードジョブが、次のようなシーケンスエラーで失敗することがある:</p> <pre>[MySQLLogParser run(), Error - MySQLLogParser processLogRecord(), Sequence number error,Begin Current Sequence VRS <001> HCSeq <1695709114000> HCLogPos <20400> RelSeq <1695709114000> LogSeq <1695709114000> UOWSeq <1695709114000> SpecialSeq <0> Last Sequence VRS <001> HCSeq <1695709114000> HCLogPos <1067985580> RelSeq <1695709114000> LogSeq <1695709114000> UOWSeq <1695709114000> SpecialSeq <9>]</pre>
DBMI-15299	DB2 for i ソースを持つデータベース取り込み増分ロードジョブ、および初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブは、ジョブの開始後に処理するデータがなく、ジャーナルの切り替えが発生すると、NullPointerException エラーで失敗することがある。
DBMI-15288	データベース取り込みの増分ロードジョブまたは組み合わせロードジョブは、ソースカラムの値が負の数で有効桁数が 38 桁の場合、DECIMAL(38, 0) データ型の SAP HANA Cloud ソースカラムから Oracle ターゲットに変更データをレプリケートするが、精度が大幅に低下する。
DBMI-15246	Db2 for z/OS ソースを持つデータベース取り込みジョブは、ストアードプロシージャが呼び出されたときにエラーチェックが行われなかったため、想定どおりに終了しない場合がある。

問題	説明
DBMI-15223	<p>SQL Server ターゲットを持つデータベース取り込み増分ロードジョブは、URL で資格情報を渡してパスワードに特殊文字が含まれている場合、NullPointerException エラーで失敗することがある。次のエラーが発生する可能性がある。</p> <p>Process <...> failed to initialize due to an unexpected exception creating of MSSQL connection. Error : The connection string contains a badly formed name or value.</p>
DBMI-15203	<p>Oracle ソースを持つデータベース取り込みジョブが、次のエラーで失敗することがある。</p> <p>Log parser found unexpected error. LOB BasicFile Parse Error. Duplicate LOB_ID found,</p>
DBMI-15081	<p>変更キャプチャの処理中に、レプリケーション対象として選択されていない CDC 対応テーブルで DML 変更が絶え間なく発生すると、SQL Server ソースを持つデータベース取り込みの初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブが、EOL マーカーの挿入要求にタイムリーに応答しないことがある。</p>
DBMI-14990	<p>SQL Server ソースを持ち、クエリベースの CDC メソッドを使用するデータベース取り込みジョブを再デプロイしようとする、再デプロイ操作が次のエラーで失敗する可能性がある。</p> <p>The DBMI agent could not process the request for metadata from org ABCQA because of error: HTTP response status code is 500</p>
DBMI-14970	<p>Db2 for z/OS ソースを持つデータベース取り込みジョブは、スキーマ名が最大長の 8 バイトを超えると、ターゲットにデータをレプリケートしないことがある。</p>
DBMI-14951	<p>Db2 for z/OS ソースを持つデータベース取り込みジョブは、Db2 WLM ストアドプロシージャが 1 回の要求で返す定義済みの最大行数が、プッシュバック発生前にキューに入れられた UOW ログレコード数より大きい場合、ターゲットにデータをレプリケートしないことがある。</p>
DBMI-14902	<p>Oracle ソースを持ち、クエリベースの CDC メソッドを使用するデータベース取り込み増分ロードジョブおよび組み合わせロードジョブで、データベースのタイムゾーンの変更が、ジョブログに存在する CDC サイクル間隔に反映されない。</p>
DBMI-14248	<p>クエリベースの CDC メソッドを使用するデータベース取り込みの組み合わせロードタスクで、ジョブが停止して再開された場合、または最初のサイクルの直後にジョブを再デプロイした場合、サブタスクのステージが【ノーマル】に変わると、データ損失が発生することがある。最初のサイクルでの DML データの変更に関係なく、データ損失が発生する可能性があります。</p>
DBMI-13116	<p>BIGINT データ型を持つカラムを 1 つ以上含むソーステーブルのカスタムメッセージキーを定義すると、Kafka ターゲットを持つデータベース取り込みの増分ロードジョブが失敗する。</p>
DBMI-13100、 DBMI-13095	<p>負のスケールまたはスケール値のない NUMBER データ型を持つキーカラムを少なくとも 1 つ含むソーステーブルのカスタムメッセージキーを設定した場合、Oracle ソースと Kafka ターゲットを含むデータベース取り込みの増分ロードジョブが失敗する。</p>

問題	説明
DBMI-11972	ソースカラムを追加した後にデータベース取り込みジョブを再デプロイしても、この再デプロイ操作によってターゲットテーブルが再作成されない。その後、ジョブは失敗します。
DBMI-11218	PostgreSQL ソースを持つデータベース取り込みジョブのいずれかのスキーマドリフトオプションを【 テーブルの停止 】に設定した場合、そのタイプの DDL 変更がソースで発生すると、ジョブが失敗する。【 オプションを指定して再開 】 > 【 レプリケート 】オプションを使用してジョブを再開しようとすると、再開されたジョブは DDL の変更をキャプチャできず、アラート通知を発行しません。

既知の問題

次の表に、一括取り込みデータベースの既知の問題を示します。各問題の説明にある（年月）の値は、問題が発見されたリリースを表します。

問題	説明
DBMI-15910	デフォルトの Secure Agent インストールディレクトリパスにスペースが含まれている場合、DB2 for i ソースと Amazon Aurora PostgreSQL ターゲットを持つデータベース取り込みジョブは、データをローカル.csv ファイルからターゲットテーブルまたは LOG テーブル（増分ロードの場合）にコピーするときに失敗することがある。この問題は、PostgreSQL の Progress JDBC ドライバの既知の問題が原因で発生します。ドライバはディレクトリパスにスペースを保持しないため、データベース取り込みジョブは.csv ファイルを見つけることができません。 回避策: スペースのない Secure Agent インストールディレクトリパスを設定します。(2024 年 2 月)
DBMI-15247	複数カラムのプライマリキーがある SAP HANA ソーステーブルを持ち、カスタムデータ型マッピングを使用してソースの TIMESTAMP カラムを Snowflake ターゲットの VARCHAR カラムにマッピングするデータベース取り込みジョブでは、データがターゲットに誤ってレプリケートされ、ターゲットカラムに無効なデータが生成される。 回避策: なし。(2023 年 11 月)
DBMI-14370	精度のない DECIMAL カラムがある SAP HANA Cloud ソースを持つデータベース取り込み増分ロードジョブが、次のエラーメッセージで失敗する。 Error executing query job. Message: Query error: Value of type BIGNUMERIC cannot be assigned to column, which has type INT64 at [number]. Error code: 100032 回避策: なし。(2023 年 8 月)
DBMI-13605	Oracle Database Ingestion の接続プロパティページには、必要な場合に EncryptionLevel などの JDBC 接続プロパティを入力するためのプロパティが含まれていない。 回避策: 【サービス名】フィールドで、Oracle SID 値の後に、セミコロン (;) を区切り文字として使用して JDBC 接続プロパティを追加できます。(2023 年 4 月リリース)
DBMI-12571	SAP HANA ソースを持つデータベース取り込みジョブが 16 桁以上の有効数字の REAL カラムからデータをレプリケートし、ターゲットで精度が失われて、データが破損する場合があります。 回避策: なし。(2023 年 4 月リリース)

問題	説明
DBMI-12331	データベース取り込みタスクで Oracle ソースの binary_double カラムと binary_float カラムのカスタムデータ型マッピングを作成すると、カスタムマッピングが無視される。代わりに、binary_double > float および binary_float > real のデフォルトのマッピングを使用して、ターゲットテーブルが生成されます。データベース取り込みジョブが実行されると、ターゲットの float カラムと real カラムに NULL が書き込まれます。 回避策: なし。(2023 年 2 月リリース)
DBMI-12327	カスタムデータ型マッピングルールを含むデータベース取り込みタスクの場合、Metadata Manager のログに、NULL 可能カラムが NOT NULL として、NULL 不可カラムが NULL として誤って表示される。ただし、マッピングされたソースカラムに対応するターゲットカラムは、正しい NULL 値の許容で生成されます。 回避策: なし。(2023 年 2 月リリース)
DBMI-11880	パーティション化が有効になっている実行中のデータベース取り込み初期ロードジョブを中止した場合、ジョブがすぐには終了しない。中止の実行が遅れます。 回避策: なし。(2024 年 2 月)
DBMI-11732	データベース取り込みの増分ロード、または初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブが LOB ソースデータを Amazon S3、Google Cloud Storage、または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットにレプリケートし、ターゲット出力ファイルに CSV 形式が使用されている場合、ターゲットファイルで LOB データが空の文字列として表示される。 回避策: なし。(2022 年 11 月リリース)
DBMI-11552	Informatica が提供する SQL Server 用の Progress DataDirect JDBC ドライバを使用して SQL Server ソースに接続するデータベース取り込みの初期ロードジョブが失敗する。 回避策: SQL Server 用 Microsoft JDBC ドライバをダウンロードします。(2022 年 9 月リリース)
DBMI-10794	TIMESTAMP WITH TIME_ZONE データ型の Oracle ソースカラムは、初期ロードジョブでのみサポートされる。(2022 年 7 月リリース)
DBMI-10272	DML 更新操作の後に挿入が続く場合、バイナリ、10 進数、または datetimeoffset カラムを含んだ SQL Server ソースと Oracle ターゲットを持つデータベース取り込みの増分ロードジョブ、または初期ロードと増分ロードの組み合わせジョブが失敗する。 回避策: なし。(2022 年 5 月リリース)
DBMI-2783	1 つ以上のテーブルがレプリケーションから除外されている場合、 【テーブルの停止】スキーマドリフトオプションが原因で、【警告ありで実行】状態のジョブで【オプションを指定して再開】コマンドを使用できない。 回避策: ジョブを停止してから、 【アクション】メニューの【オプションを指定して再開】をクリックしてジョブを再開します。 (2020 年 7 月リリース)
DBMI-2297	Amazon S3 接続プロパティを使用すると、ユーザーは IAM ロールを指定できても、AWS Security Token Service API の AssumeRole メソッドによって生成された一時的なセキュリティ認証情報を使用して AWS Amazon S3 リソースへのユーザーアクセスを承認することができない。 回避策: なし。(2020 年 4 月リリース)

一括取り込みファイル

修正された問題

次の表に、最近一括取り込みファイルで修正された問題を示します。すべての月次リリースに、修正済みの問題が含まれているわけではありません。各問題の説明にある（年、月）の値は、問題が修正されたリリースを表します。

2024 年 2 月リリースで修正された問題

CR	説明
CCON-94476	バイナリファイルに対して【ファイルが存在する場合】オプションが【付加】に設定されているファイル取り込みジョブを実行した場合、ファイルの内容が付加されない。 (2024 年 2 月)

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルサポートセンターには、Informatica Network または電話でお問い合わせください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを検索するには、Informatica Intelligent Cloud Services のヘルプメニューで【サポートにお問い合わせください】をクリックして、**Cloud Support** ページに移動します。**Cloud Support** ページには、システムステータス情報とコミュニティディスカッションが記載されています。追加のリソースを検索する場合や電子メールで Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせる場合は、Informatica Network にログインし、【サポートが必要な場合】をクリックしてください。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。